

教 育 長 賞

水の汚染について 考えること

浜松市立富塚中学校

三年 飯田 さん

僕の家から徒歩一分もかからないところに佐鳴湖という湖がある。佐鳴湖というのは一周約六キロの小さな湖で春には多くの桜が咲き、多くの人がお花見をしにやってくる。秋には紅葉がとてもきれいになる。そして佐鳴湖は野鳥がとて有名で、年中様々な野鳥が見られる。また、それを目当てに多くの人がやってくる。自分も佐鳴湖には、よく走りに行っていて様々な景色が見られて走っていてとても楽しい。

年中多くの人が集まる佐鳴湖、しかし、大きな問題を抱えている。それは佐鳴湖の汚染問題だ。十年前、佐鳴湖は水質ランキングというものでワースト一位をとったこともあるぐらいだ。ここ数年はワースト一位を逃れてはいるが、それでも下位の順位だ。これは改善しなければならぬ問題だ。

僕の学校では、総合の時間で自分でテーマを決めて、それについて追究をするということがあった。僕はそこで佐鳴湖の汚染問題について調べた。

調べてみてどうしてこんな状況になったのかということ、がなんとなく分かってきた。まず、大きな原因の一つは生活排水、農業排水だそう。それを昔、佐鳴湖にそのまま流していた。そのことによってプランクトンというもの、が異常発生してしまい、多くの魚が死んで異臭をはなつよう

になった。今でも佐鳴湖を見てみるとヘッドロミみたいなものが多く浮いている。そしてもう一つはペットボトル、ちり紙、ティッシュなどのゴミだ。これらは近くの浜名湖といった大きな湖から流れてくるそう。佐鳴湖を見てみるとうちあげられたゴミがすごく多い。浜名湖から流れてくるゴミもあると思うが、ポイ捨てをする人も多く見られた。

浜松市も何もしていないというわけではない。浜松市はこの状況を改善するために二つの活動をしている。一つは佐鳴湖クリーン作戦というもの。毎年二回、市民が集まってゴミを拾う。二つ目はヨシ刈りというもの。ヨシというものは汚染の原因となっている窒素やリンを吸収するという役割をする。そのヨシを刈ることにより、ヨシがよく育つて水を浄化するそう。そして毎年、夏に花火祭りというものをやっている。その花火には佐鳴湖の水質の改善が願われている。花火大会の次の日にもクリーン作戦を行ってゴミ拾いを行っている。

このような活動もあって佐鳴湖は少しずつきれいになった。小さいころから佐鳴湖へ散歩などに行っていたため、よく分かる。変化したのは、主に臭いだ。昔は本当に臭いがきつく、かなりくさった臭いがしてきつい感じだったが、ここ数年は普通に散歩などをして臭いが気になるようなことはなかった。今回調べてみて自分が全然知らないよう

なこともあって、少しずつ変わっていかうとしている行動を知ることが出来た。

最近のテレビなどでも、アフリカなどの子供が汚染された水を飲んでいて危険というCMがよく流れている。なぜ水が汚染されているのか、それは人間が生きているからだ。人間の都合のよさで自然というものを破壊してしまっているのだ。人間は地球においていない存在なのかもしれない。

そんな人間でも生きていかなければならない。人間は自然界を破壊してしまっている。だからこそ、恩を返さなければならぬ。僕は佐鳴湖のそばで暮らしているのに積極的に佐鳴湖にかかわっていない。まずは目についたゴミを拾うことから始めたい。そしてきれいな佐鳴湖を次の世代へ残していきたい。やってしまったことは、しようがない。しかし、そこで逃げてしまったり、目をそらしたりすることは一番やってはいけない行為だ。だから僕は自分でできることを精一杯やって佐鳴湖を守っていきたい。